The Japanese School of Johannesburg NEWS Letter
めざせ！南十字星
10
２０２６(令和８)年
月２６日発行
ヨハネスブルグ日本人学校 学校だより

学校教育目標
国際感覚を身につけ、確かな学力と
豊かな人間性を備えた児童生徒の育成
合い言葉：自立・貢献

AI 時代を生きる「学力」後編

校長 石山 秀樹

前回、９月号の学校だよりでは、日本を対象に行われた二つの学力調査の結果等から、求められる学力について考察しました。続編である今回は、教育と AI の関わりについて触れます。

結論から言えば、私は本校のような義務教育段階において、子ども達の教育に直接に AI、特に生成 AI を導入、利用する必要はないと考えています。その上で、生成 AI 等との「向き合い方」を学ぶ場があるべきだと思っています。それはもちろん、ただダメ！なのではなく、言葉を学び、思考や表現の仕方の基礎作りをする人間としての発達段階、「これからの社会」で生き、活躍するための力をつける教育のねらいを踏まえたときに、生成 AI の直接利用は不要、または害を為す可能性もある、と考えるからです。

2022 年に ChatGPT が一般に流布してからまだ 5 年足らずですが、生成 AI は我々の生活にも仕事にも広く普及、浸透しました。Google で検索するだけでも、いつの間にか頼んでもいないのに AI の要約が出力されるようになりました。私自身でも、定型文の作成、英訳和訳の比較検討、会議録の処理等では既に欠かせないものとなりつつあるほか、８月号のだよりで紹介した「本校創立当時のモノクロ画像をカラー化（Canva 内のアプリを利用）」した際にはその出来栄えに私自身が驚かされました。必要に応じ個人の端末にも AI エージェントをインストールし、予定の把握からメール送受信をはじめ外部との対応を任せる（私はしていませんが）こともできます。既に業務で必須とされているところも多いでしょうし、世界的なテクノロジーの見本市である「CES2026」では、これまでのような言語ベースの生成 AI からさらに進み、ロボットや自動化技術と組み合わせて物理的な実態を伴う「フィジカル AI」の展示発表が話題となりました。このような世の中の動きに対し、教育はどうあるべきなのか、が問われるところです。

日本の文部科学省は今年６月、「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)」を発表しました。その内容は大雑把には「生成 AI はリスクを認識したうえで利活用し、情報リテラシー（活用能力）向上を図る」スタンスと捉えられます。

このうち、生成 AI が出力する回答がどのような過程を経て生成されるものなのか、等を学ぶことは、小学校高学年くらいでは特に必要と感じます。人と会話しているのと変わらないくらいに自然な対話型 AI が導く、これまた大変にもっともらしい回答は、必ず「検証」したうえで利用の必要があるものだということは、今後の情報リテラシーの第一歩になるでしょう。またその取組の中で、特に一般的な無償の生成 AI に渡すべきではない情報（個人情報等）についても学ぶことができるでしょう。

加えて、文科省の掲げる「**個別最適な学び**」については、生成 AI が一定の役割を果たす期待があります。子ども一人一人が学びを進める中で湧いてきた疑問一つ一つについて、現在の 40 人学級の学校や時間制限や料金のかかる塾、個人教授ではそもそも対応しきれません。その点、生成 AI であれば、いくらでも倦むことなく子どもの疑問に付き合うことが可能です。もちろん、回答を検証したり、生成 AI へ依存しきることがないような手立ては必要でしょう。さらに将来的にはただ回答を返すのではなく、より子どもの発達を促すような、新たな問いに繋がる働きかけができる生成 AI ができれば … 私達人間の教師の出番が少なくなってしまうかもしれませんね。

一方で、いわゆる「読み･書き･計算」や文章を読み取り、まとめ、書く力…「文章力」を育成する取組は、小学校低～中学年では生成 AI はもちろん、できれば ICT 機器もなるべく介さずに、その出力はしっかりと手で書かせるところを大事にしたいと思っています。これは十分な文献等の裏付けがあるわけではないのですが、**人の効果的な「学び」には「身体性」**すなわち、音読

する、手で書き表す、身体を使って表現するといった内容が不可欠であると、私自身が教職経験の中から掴んできたことによります。

また、長文を読み取りその内容を要約したり、あることについての自分の考えを字数制限の中で書き表したりする問題は文章力を鍛える定番ですが、生成 AI が最も得意とするところでもあります。つまり、「この文章の内容を要約して」と依頼し、生成 AI が一瞬で回答した答えではなく、その過程にこそ人の発達段階の学びがあるということです。**生成 AI に比べれば時間も手間もかかり非合理的に見える「脳ミソが汗をかくような取組」を繰り返していくこと**に、将来の社会で活躍する人として必要な学びがある、というのは言い過ぎでしょうか。

言語は思考と深く結びついています。本校では**「物を考えるというのは、頭の中で文章を作ること」**として、あらゆる教育活動の中で文章力向上の取組を進めています。

一般的に人は、**それまでに蓄積した言語経験を基に、小学校中学年から中学生の年代で抽象的概念の理解、論理的思考力や客観的視点を持った考察力が一気に伸長する**とされています。本校は「在外教育施設／日本人学校」として、在外の社会環境において貧弱になりがちな日本語活用経験を豊富に蓄積させ、その中から思考力・表現力をつけていきたいと考えています。

生成 AI の社会への浸透に伴い、「大学生が見た目にも素晴らしいプレゼンを作成してきたが、その内容を自分で説明できない」「会社で部下のレポートの矛盾点を指摘したが、『AI がそう言っていた』で終始し議論にならない」といった真偽も不明な話が流れ、「AI 友達/恋人探し」や「AI 人生相談」にはまる人もいるなどといった報道を目にします。生成 AI が自分の情報ツールなのか、はたまた自分自身が生成 AI に隷属する外部行動装置に成り下がっているのか、そのあたりが心配になる話です。便利でスマートな時代になるからこそ、**「自分は何をしたい/すべきなのか」といった主体性、多くの情報を基に責任ある選択と表現・行動**が求められるようになるのではないかと思っています。

CES2026
https://www.cnet.com/best-of-ces-2026/
https://cthings.co/blog/ces-2026-reflections-scaling-physical-ai-from-pilot-to-fleet
文科省：生成 AI の利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)

学習発表会／創立60周年記念行事

１０月３１日(土)、午前中に学習発表会、引き続き午後に本校 創立６０周年記念式典、さらに PTA バザーが実施されます！

「小さな学校」の「大きな発表」を、ぜひお楽しみください。

学習発表会

テーマ「 やっちゃえ JSJ！ ～未来へ羽ばたけぼくらの想い～ 」

- G２　プレゼンテーション「JSJ を調べてみました」
- G５・６　時代劇「全南阿が笑った竹取物語」
- G３　クイズ「南アフリカクイズ」
- G１　学習劇「おむすびころりん G1 ガールズ ver.」
- G７・８　プレゼンテーション「他の見方を試してみよう」
- G４　道徳劇「正直５０円分？」
- G９　クイズ「６０年の軌跡」
- 全校音楽

「日本と南アフリカ～６０年の歩みを未来へ～」

創立６０周年記念式典・行事

つなぐ思い・むすぶ力・ひらく未来

- ６０周年記念演奏　サンセッツ
- 御挨拶
- 御祝辞
- 来賓紹介/卒業生皆様のお言葉
- 児童・生徒 未来へのメッセージ/校歌斉唱
- 航空記念写真撮影
- PTA バザー

JSJ News Blog: JSJ NEWS EXPRESS